

大項目	中項目	小項目	具体的な視点	傾斜 配点	候 4 南活用	候 5 鎌沢
1 関連法規 の準拠	適正な面積 及び形状	1 面積	必要な学校施設を整備することかてきる面積であること将来の施設需要に十分対応することのてきる面積であること。35,000㎡以上必須、40.000㎡以上が望ましい。	15	11.4	13.7
2 安全性	安全な環境	2 自然災害	風雪害、水害等、自然災害リスクが低い場所であるか。	10	8.6	8.2
		地質・地盤	建物を安全に設置できるか。			
		安全な地形	危険な高低差や深い池など過大な造成がcaなく進められるか。			
		3 道路	周辺は一定幅以上の道路に接することが可能か。	5	3.9	4.1
		4 車出入り	頻繁に車の出入りを伴う施設が立地していないか。	8	6.7	6.7
		5 避難場所	災害時、住民の避難場所として適切か。徒歩で避難を想定した場合、適地といえるか。			
3 教育環境	周辺の環境	6 病院等	医療機関が比較的近く事故等への対応のしやすさ。警察署・消防署が近くにacるか。	6	5.2	5.2
		7 騒音・臭気	騒音や異臭を発生する工場、その他の施設がなく適切な環境か。			
		8 興行場	教育上ふさわしくない施設や娯楽を目的の施設が立地していないか。	6	4.6	4.7
	健康で文化 的な環境	9 施設連携	学校との連携や地域施設とのネットワークを考慮し立地することができるか。 社会教育・体育施設など共同利用を図れる施設に近接して立地することができるか。			
		1 0日照	良好な日照及び空気を得ることかてきるか。	6	5.4	5
4 利便性	通学区域 通学路 通学路の安全	1 1景観	景観等が良好か。			
		1 2通学距離	文科省推奨距離は小学生4 キロ以内、中学生6キロ以内です。小中統合の昭和村義務教育学校はこれをクリアできません。今後、文科省の推奨距離よりも少ない徒歩通学距離を協議し、それを上回る地区は全てスクールバス利用とします〈徒歩通学距離目安：高低差や酷暑・クマ出没等を考慮し、小中ともに2km未満で検討予定〉	10	8	8.3
		1 3 居住分布	児童生徒の居住分布から判断して適正か。	5	4.5	4.3
		1 4 通学路の安全	交通道路に配慮した安全な通学経路を確保できるか。 防犯上,死角が多い場所,人通りの少ない場所をさけ安全確保ができるか。	6	4.6	5
5 地域との 近接性	地域・開放	1 6地域・開放	地域との連携を考慮し児童生徒と地域との交流や学校開放を実施する際の利用者の利便性に留意し,効果的な交流や開放活動を行いやすいか。	8	6.4	6.8
6 文化財 ・農振除外	インフラ	1 7インフラ文化財	周辺のインフラ整備にコストを要しないか。	8	5.4	4.6
	文化財・農振除外	・ 農振除外	文化財・農振除外等の法的手続きが比較的容易か。			
7 村づくり の視点	将来性	18発展性	学校周辺の産業や地域活動の連携や発展が見込めるか。	7	5.7	6
			小計	100	80.4	82.6
スクールバス維持費		〇〇〇〇円	別紙スクールバス維持費想定より：年間コストが一番かからない候補地を10、以下、コスト約1,000万うわまるごとに－ 1 として計算しました。	10	10	7
建設費用の想定額		〇〇〇〇円	別紙建設費試算表より：60億円を基準点の20とし、以下コスト 1 億事に低い場合プラス 1、高い場合マイナス 1 で計算しました。	30	24	9
義務教育学校の特徴を踏まえた校舎設計の実現度		(小中一体化、4・3・2ブロック編制)	別紙の昭和村義務教育学校の設備(コンセプト) の実現の可能性として、新設を 1 0、解体を 8 (解体でも制限あり) 、校舎活用を 5 (制限が多い) としました。	10	5	10
			小計	50	39	26
			合計	150	119.4	108.6

* 数値化しにくかった観点 地域説明会の意見や要望を反映した観点

・昭和村埋蔵文化財包蔵地指定：「南小学校」候補地が該当（「マッピングぐんま（遺跡・文化財）より。鎌沢は包蔵地ではないため、本調査は試掘調査の結果を踏まえた判断となる）。文化財が出土すると文化財保護法の手続き・調査が実施される。学校のような大規模工事の場合、 <u>試掘・本調査に1 ～3年ほどかかることがある。</u>		
・試掘調査・本調査費用見積もり：（㎡ 2 万円）× 該当㎡。南小校舎活用：約1億2,300万円		
・文化財調査等の影響により、令和13年度開校に影響が及んでしまう恐れがあるか。		
・東小及び南小候補地の場合：校舎活用及び解体・新築いずれの場合も、 <u>該当校児童は 2 年間他校で学習</u> することになる ・ <u>その間のスクールバス運用費（2 年で約 2 億円）</u>		
・鎌沢候補地：候補地内十時に走る生活道路の損失と迂回路の不便さや、用地取得（代替地の要望有）→ <u>コンビニに抜ける生活道路を維持した設計を検討する。</u> ・鎌沢候補地の地盤について（地震対策）：ボーリング 検査後必要が生ずると→ <u>建築面積に応じて3.5億円ほどの杭工事の可能性あり。</u>		
・災害時の保護者送迎ルートの適性		
・政治的・大局的な「村づくりの文脈」（そこに建設することにより）若い家族層を呼び込み・定住促進・村の活性化・人口減少対策に繋がる可能性への期待度		
・建築費の上昇予想 建設工事着工は11年度・ <u>建設費の上昇は10%～15%になると想定。</u> <u>現見積もり額の多い方が上昇金額が高くなる。</u> 南校舎活用：56億→61.6億 ～64.4億 （村持ち出し：25.76億 →28.3億 ～ 29.6億）。 鎌 沢：71億→78.1(+16.5億) ～81.6億 (+17.2億) （村持ち出し：32.7億(+6.9億) →36.0 (+7.7億) ～ 37.6億 (+8億) ）		
・委員より		
・委員より		

○南小活用案 最大見積もり・着工時（15%上昇予想、村持ち出し額予想計算）：29.6億+6,660万(本調査+試掘の35%計算) +1.15億(50%バス補助) = 31億4,160万円

○鎌沢案 最大見積もり・着工時（15%上昇予想、村持ち出し額予想計算）：37.6億+4億200万（杭工事）= 41億6,200万 （差額：10億2,040万円）

○南小活用時の 2 年間：東小に移動。東小の学級数（部屋数）が少なく、それを保障する増設工事が必要となりそうです。金額は未定？

大項目	中項目	小項目	具体的な視点	傾斜 配点	候 4 南解体	候 5 鎌沢
1 関連法規 の準拠	適正な面積 及び形状	1 面積	必要な学校施設を整備することかてきる面積であること将来の施設需要に十分対応することのてきる面積であること。35,000㎡以上必須、40.000㎡以上が望ましい。	15	11.3	13.7
2 安全性	安全な環境	2 自然災害	風雪害、水害等、自然災害リスクが低い場所であるか。	10	8.5	8.2
		地質・地盤	建物を安全に設置できるか。			
		安全な地形	危険な高低差や深い池など過大な造成がcaなく進められるか。			
		3 道路	周辺は一定幅以上の道路に接することが可能か。	5	3.9	4.1
		4 車出入り	頻繁に車の出入りを伴う施設が立地していないか。	8	6.6	6.7
		5 避難場所	災害時、住民の避難場所として適切か。徒歩で避難を想定した場合、適地といえるか。			
3 教育環境	周辺の環境	6 病院等	医療機関が比較的近く事故等への対応のしやすさ。警察署・消防署が近くにあるか。	6	5.1	5.2
		7 騒音・臭気	騒音や異臭を発生する工場、その他の施設がなく適切な環境か。			
		8 興行場	教育上ふさわしくない施設や娯楽を目的の施設が立地していないか。	6	4.6	4.7
	健康で文化 的な環境	9 施設連携	学校との連携や地域施設とのネットワークを考慮し立地することができるか。 社会教育・体育施設など共同利用を図れる施設に近接して立地することができるか。			
		1 0日照	良好な日照及び空気を得ることかてきるか。	6	5.3	5
4 利便性	通学区域 通学路 通学路の安全	1 1景観	景観等が良好か。			
		1 2通学距離	文科省推奨距離は小学生4 キロ以内、中学生6キロ以内です。小中統合の昭和村義務教育学校はこれをクリアできません。今後、文科省の推奨距離よりも少ない徒歩通学距離を協議し、それを上回る地区は全てスクールバス利用とします〈徒歩通学距離目安：高低差や酷暑・クマ出没等を考慮し、小中ともに2km未満で検討予定〉	10	7.9	8.3
		1 3居住分布	児童生徒の居住分布から判断して適正か。	5	4.4	4.3
		1 4通学路の安全	交通道路に配慮した安全な通学経路を確保できるか。 防犯上,死角が多い場所,人通りの少ない場所をさけ安全確保ができるか。	6	4.5	5
5 地域との 近接性	地域・開放	1 6地域・開放	地域との連携を考慮し児童生徒と地域との交流や学校開放を実施する際の利用者の利便性に留意し,効果的な交流や開放活動を行いやすいか。	8	6.4	6.8
6 文化財 ・農振除外	インフラ	1 7インフラ文化財	周辺のインフラ整備にコストを要しないか。	8	5	4.6
	文化財・農振除外	・農振除外	文化財・農振除外等の法的手続きが比較的小易か。			
7 村づくり の視点	将来性	18発展性	学校周辺の産業や地域活動の連携や発展が見込めるか。	7	5.7	6
			小計	100	79.2	82.6
スクールバス維持費		〇〇〇〇円	別紙スクールバス維持費想定より：年間コストが一番かからない候補地を10、以下、コスト約1,000万うわまるごとに－1として計算しました。	10	10	7
建設費用の想定額		〇〇〇〇円	別紙建設費試算表より：60億円を基準点の20とし、以下コスト1億事に低い場合プラス1、高い場合マイナス1で計算しました。	30	10	9
義務教育学校の特徴を踏まえた校舎設計の実現度		(小中一体化、4・3・2ブロック編制)	別紙の昭和村義務教育学校の設備(コンセプト)の実現の可能性として、新設を10、解体を8(解体でも制限あり)、校舎活用を5(制限が多い)としました。	10	8	10
			小計	50	28	26
			合計	150	107.2	108.6

* 数値化しにくかった観点 地域説明会の意見や要望を反映した観点

・昭和村埋蔵文化財包蔵地指定：「南小学校」候補地が該当（「マッピングぐんま（遺跡・文化財）より。鎌沢は包蔵地ではないため、本調査は試掘調査の結果を踏まえた判断となる）。文化財が出土すると文化財保護法の手続き・調査が実施される。学校のような大規模工事の場合、 試掘・本調査に1～3年ほどかかることがある。		
・試掘調査・本調査費用見積もり：（㎡2万円）×該当㎡。南小校舎解体：約1億6,100万円		
・文化財調査等の影響により、令和13年度開校に影響が及んでしまう恐れがあるか。		
・東小及び南小候補地の場合：校舎活用及び解体・新築いずれの場合も、 該当校児童は2年間他校で学習 することになる ・その間の スクールバス運用費（2年で約2億円）		
・鎌沢候補地：候補地内十時に走る生活道路の損失と迂回路の不便さや、用地取得（代替地の要望有）→ コンビニに抜ける生活道路を維持した設計を検討する。		
・鎌沢候補地の地盤について（地震対策）：ボーリング検査後必要が生ずると→ 建築面積に応じて3.5億円ほどの杭工事の可能性あり。		
・災害時の保護者送迎ルートの適性		
・政治的・大局的な「村づくりの文脈」（そこに建設することにより）若い家族層を呼び込み・定住促進・村の活性化・人口減少対策に繋がる可能性への期待度		
・建築費の上昇予想 建設工事着工は11年度・ 建設費の上昇は10%～15%になると想定。現見積もり額の多い方が上昇金額が高くなる。 南校舎解体：70億→77億 ～80.5億 （村持ち出し：32.2億 →35.4億 ～ 37億）。 鎌 沢：71億→78.1(+1.1億) ～81.6億 (+1.1億) （村持ち出し：32.7億(+0.5億) →36.0 (+0.6億) ～ 37.6億 (+0.6億) ）		
・委員より		
・委員より		

○南小解体・新築案最大見積もり・着工時（15%上昇予想、村持ち出し額予想計算）：37億+6,660万(本調査+試掘の35%計算)+1.15億(50%バス補助) = 38億8,160万円

○鎌沢案 最大見積もり・着工時（15%上昇予想、村持ち出し額予想計算）：37.6億+4億200万（杭工事） = 41億6,200万 （差額：2億8,040万円）

○南小活用時の2年間：東小に移動。東小の学級数（部屋数）が少なく、それを保障する増設工事が必要となりそうです。金額は未定？